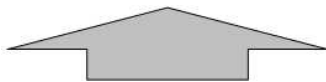


事務事業名 図書・視聴覚資料購入事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：701

施策：	05	生涯学習社会の推進	財務コード	01090609-06-583
基本事業：	03	読書活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	図書館の年間利用者数 図書館の設備・資料の満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成02年度 ~	新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
すべての市民、在勤、通学者、福岡都市圏住民及びすべての来館者。		常に新しい情報を提供するための図書購入及び資料収集、保存、提供事業を推進する。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		根拠法令 ・ 図書館法 ・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ・ 筑紫野市教育委員会事務局及び職務執行規則 ・ 筑紫野市立図書館設置条例				
子どもの読書推進を目的に、乳幼児から青少年までの世代に対し、本の世界に親しむことができるよう豊富な資料をそろえる。全ての世代に対し、知る権利と学ぶ権利を保障するため新鮮な資料をそろえ、娯楽・レクリエーション・調査研究に資する。						
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
貸出点数（書籍・視聴覚資料）	冊	701,415	685,954	715,000	700,000			
貸出点数（電子書籍）	点	4,938	7,620	5,000	8,000			

5. コスト								
事業費	計	千円	27,191	27,779	28,689	29,153		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	14,346	13,982	14,346	13,982		
一般	千円	12,845	13,797	14,343	15,171			
正職員人工数	人工	0.8	0.8	0.8				
正職員人件費	千円	6,252	6,418	6,705				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	33,443	34,197	35,394	29,153			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている	<状況>市民図書館における総貸出冊数は、前年度から減少している。 <原因>コロナ禍後における余暇の過ごし方の変化やデジタル化の増進による本離れが現れていると思われる。減少している中でも、電子図書館の貸出点数については、前年度から増加している。 蔵書冊数については、破損、汚損本及び内容が古くなる等、利用に適さない本を廃棄するため変動は少ないが、多様化する市民ニーズを満たす図書の購入や読書バリアフリー化を図りながら、貸出冊数の増につながるよう努めている。							
どちらかといえばあがっている								
あがっていない（停滞・低下）								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）			
対象動向	維持	類似事業	なし
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし
成果向上余地	中程度		

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）	改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）	
多様化する市民ニーズを満たす図書の購入や読書バリアフリー化を図るための電子図書の購入を進めていく。また、子どもの読書活動推進事業とも連動した図書の購入を併せて進めていく。	

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
社会教育法の規定する市民の学習の場としての施設を充実するため、昭和62年まちづくりプロジェクトが市長に「筑紫野市立図書館建設について」提言書を提出。平成2年中央公民館図書室を閉鎖し図書館を開館した。令和4年9月より電子図書館を導入。	子どもの読書活動推進と学校図書館支援を図っていくため、学校との連携を進めている。主な連携内容としては、「学校団体貸出サービス」「学校配本サービス」「学校図書司書との交流会」を実施している。